

DSpaceによる導入事例

杉田茂樹 <sugita@lib.hokudai.ac.jp>

北海道大学附属図書館

平成18年7月21日

本日の内容

- 導入事例 (北海道大学学術成果コレクション)
- 機関リポジトリ構築コストについての考え方
- 北海道大学がもう一度やり直すとしたら



導入の経緯など

- 担当部署
 - 附属図書館情報システム課システム管理係
 - 係長1、係員1（ともに図書系職員）
- 学術機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクト（平成16年6月～平成17年3月）
 - NII-IRPワークショップ（平成16年6月・軽井沢）
 - ノートPC持込によるインストール作業
 - Infocom、独立コンサルタントによるサポート

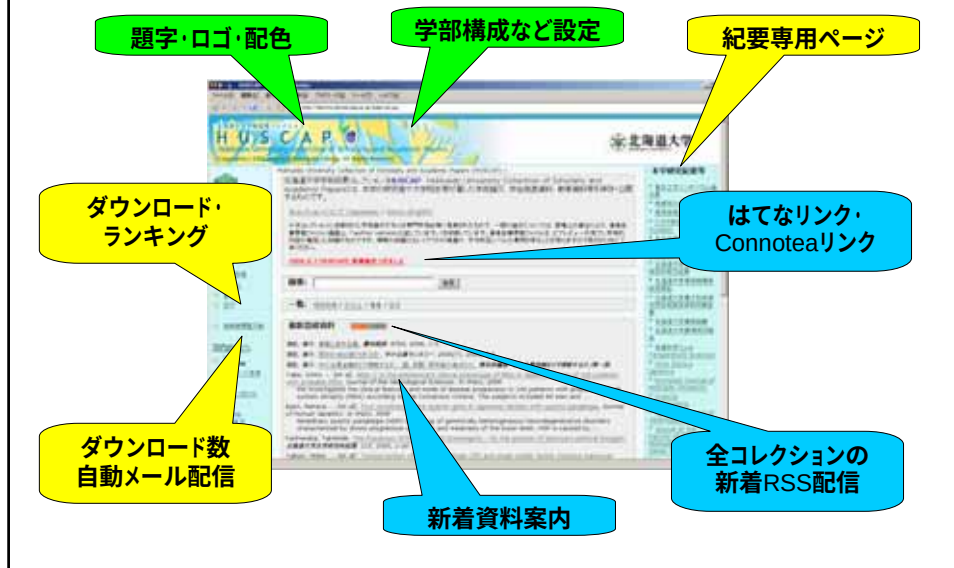
NII-IRPワークショップでのDSpace



DSpaceの導入

- **Linux等のUNIX系OSのインストール経験があれば十分可能**
 - NII-IRP報告書
 - DSpaceまとめサイト (京都大学)
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace-memo/>
 - 機関リポジトリ構築ソフトウェアの日本語対応 (江別市鈴木氏)
- 日本語対応商用パッケージの利用
- 導入サービス (役務) の利用
- ホスティングサービスの利用

DSpaceのカスタマイズ



カスタマイズの考え方

機関リポジトリにユーザが来ることはない
(ユーザはGoogleから直接PDFに来る)

- 検索機能に凝らない (本来は検索機能不要)
- ブラウズ機能に凝らない
- RSS配信は無意味

“アクセス・プロバイダ”
(スティーブン・ハーナッド)

全ては、ショーケースとしてアリバイ作り

英国高等教育機関の例

<http://www.publications.parliament.uk/pa/cm200304/cmselect/cmsctech/399/39909.htm#a32>

サーバ購入	300,000円
ソフトウェア	0円
導入作業 (5人/日)	120,000円
カスタマイズ作業 (15人/日)	360,000円
初期費用合計	780,000円
技術サポート	既存IT部門
コンテンツ登録補助	6,000,000円
システム維持費用	260,000円
年次費用合計	6,260,000円

1:7.7

持続的なIRとするために

- 持続的发展への先行投資
- 目標＝CSI経費が途切れた段階で、「ほっておいても自然に文献が増えていく状態」になっていること

機関リポジトリ構築の目的

- × 機関リポジトリを作り文献を集めること
- 教育・研究成果の電子公開を望む研究者(＝大学)のための持続的インフラとしての役割を果たすこと

優先事項

1. 広報活動→概念理解の普及、自発的提供の促進
2. システム構築
3. 初期コンテンツ作成 (紀要など、やりやすいもの)

初期コンテンツとは

- 広報の一環
 - 目的＝「ああ、こういうものか」とわかってもらうこと
- あくまでキックオフ時のための見せダマに過ぎない。これでマンパワー・金パワーが疲弊してしまうぐらいであれば、やらないほうがベター
- 教育・研究活動の成果物 (全文・生データ) に限ること
- 研究者・経営層の理解の妨げになるコンテンツは？
 - 図書館貴重資料＝絶対に入れてはいけない
 - 紀要・学位論文＝入れるとしても極力あとまわしにすべき

北大がもう一度やり直すとしたら

- 領域1提案～200万円受託
- 初年次目標
 - システムはEPrintsまたはDSpaceまたはなし
 - 周知を最優先 (理解までは望まない)
 - タマがなくとも、なるべく早期に公開試行運用
(cf. HUSCAPオープン時の収録文献数は30)
 - 初期コンテンツとしてはPublisher版PDFのIR公開が許容される出版社・学協会のジャーナル掲載文献、余裕があれば紀要BN

システム担当者あり

広報経費	100	ポスター、ちらし、販促グッズ
	1,200	アルバイト雇用 (150×8ヶ月*)
システム構築	100	サーバ用ハードウェア
初期コンテンツ作成	300	アルバイト雇用:Pub版OK出版社分のコピー登録作業
	180	紀要BN (スキャン8円+メタデータ100円で1000編)
雑費	120	情報収集等

* 日常業務をバイトに振替。職員1人/日を企画・営業活動・コンテンツ管理に配置。

システム担当者なし

広報経費	100	ポスター、ちらし、販促グッズ
	1,200	アルバイト雇用 (150×8ヶ月)
システム構築	100	サーバ用ハードウェア
	150	SEスポット調達 (2人/日*)
初期コンテンツ作成	300	アルバイト雇用:Pub版OK出版社分のコピー登録作業
雑費	150	情報収集等

- ・ 独立コンサルタントを想定するが、理・工・情報系院生短期バイトでも十分

システムなし

広報経費	400	ポスター、ちらし、販促グッズ
	1,200	アルバイト雇用 (150×8ヶ月)
初期コンテンツ作成	300	アルバイト雇用:Pub版OK出版社分のコピー登録作業
雑費	100	情報収集等

Eprints (ないしDSpace) の導入は来年以降、今年は文献を図書館Webページに並べるだけで済みます。
(来年にはもっとノウハウがたまっているかも)

よい計画・よくない計画

広報経費	最重点	偏重→成果はみすぼらしくとも発展性は充分！
システム構築	極力小さく	偏重→空箱ができるだけ
初期コンテンツ作成	余った経費で	偏重→発展の見込みのない初期構築
雑費	相応に	偏重→勉強だけで終わる

システムを構築し千の死んだコンテンツを集めるよりも、ひとりの先生の共感を勝ち取ること